「どう生きるか」から考えるACP

▸▸2

周囲の人々の協力

前回では、主介護者（娘：60歳代）の健康が、本人（母親：90歳代）の在宅療養の希望に大きく関わることの話になった。それにしても、日本の医療の診断から治療に至るアクセスの良さは、本当に素晴らしいと思う。介護者が早期に健康を取り戻せることは、本人の在宅療養の継続につながる。介護者である娘の早期退院によって、母の認知症は悪化せず、猫と自宅での療養生活に戻ることができた。急性期医療の恩恵であり、家族の代わりに介護にあたっていただいた関係者の支援があってこそ、できる事だ。

ただ問題は、介護者の娘が退院してきてからのことである。入院中は病院食がもちろん出たが、帰ってからはそうはいかない。まずは日々の買い物である。そんな時、「腹部の手術後に大きな荷物を抱えるのはつらいだろう」と、近所の方が買い物を申し出てくれた。そのおかげで、母は好物のお刺身を欠かさず食べることができた。

「お母さんの介護食は作れないけれど、これ、お姉ちゃん、食べてね」と、娘である私にも夕食も届けてくれた。それは口当たりのよいおそうめんや、かぼちゃの煮物だった。ご近所さんは70歳代。心細やかな親切が身に染みた。人間関係が希薄になってきているというこの時代に、人の優しさに勇気づけられた。

同時に、障碍者を家族に持つご家庭を想像した。私の場合、手術と退院というゴールがある程度見えていたが、そうではなく、ケアが常に必要なご家庭には、どういう支えが必要になるだろうか？「地域を含めて、ますます考えなければいけない課題だ」と思った。

本人だけでなく介護する人の健康についても変化することを忘れてはならないと思う。

（ペンネーム　T子&Tigra）

（つづく）

私たちの身近にあるかけがえのないそれぞれの人生の物語や、終末などについて取り上げていくシリーズです。ACP：アドバンス・ケア・プラニング（Advance Care Planning）は、『人生会議』ともよばれています。

みみはらファミリークリニック・高砂クリニック元所長の小児科・山上佳代子医師から、「こんな本があるよ」とご紹介いただきました。

『在宅ひとり死のススメ』
著：上野千鶴子
（文藝春秋 2021年１月20日発行）

理事会報告

7月理事会〈概要〉

開催日時
2021年
7月29日（木）
午後6時～8時
出席：理事22名
監事3名

〈主な内容〉

◆報告
・拡大常任理事会、各種委員会概要
・健康友の会みみはら、社保・平和のとりくみ報告
ふくいずみ支部1周年、理事長たまり場訪問など
・無料低額診療の各事業所実績報告
・2021年6月度決算概要及び第一四半期決算概要

◆協議確認事項
【規程の一部改訂について】
権限規程の一部改訂について提案し、承認された。
【役員改選について】
役員・評議員選考委員会の設置について提案し、承認された。
【臨時評議員会の議案について】
同仁会評議員会を9月16日に開催し、議案を理事・監事の選出として提案し、承認された。
【泉州看護専門学校学則の変更について】
第5次カリキュラム改正に伴う泉州看護専門学校学則変更について提案し、承認された。

ACP Thinking Time！

一緒に

あなたは困った時に「助けて！」と声を上げることができますか。
その「助け」を求められる人は誰ですか。

ご家族・ご友人・ご近所さん・地域の福祉団体・友の会…

「遠くの親戚よりも近くの他人」とはいいますが、現代の世の中ではそうもいきませんよね。まずは身の回りの方々を思い浮かべて考えてみませんか。そして、ぜひ連絡をとってみてくださいね。

「てんぷら！声を聞かせて」絵本より

まわりに〝声〟を届けて ミャンマーに注目を集めよう

2021年2月、ミャンマーの国軍は、圧倒的な得票で選ばれた民主的な政権を武力で覆しました。国軍に反対するデモや抗議活動が行われましたが、国軍は実弾を発砲し、多くの犠牲者を出しました。そして、それは2021年7月現在でも続いています。

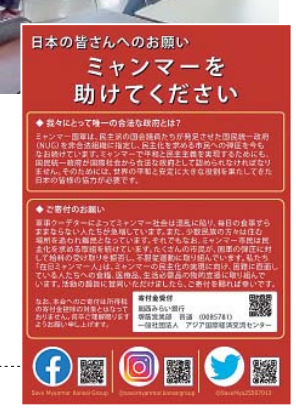
「ミャンマーで何が起こっているのか。真相を知りたい！」と呼びかけ、講演会を企画しました。7月8日17時45分から、鳳クリニックの会場とオンライン配信をあわせて、19人の参加で開催されました。

講演会では、「ミャンマーの今」をテーマに、ミャンマー出身の小川モモウさんからリアルな現状が話されました。現地映像の視聴を主とした講演で、信じられない映像でした。「国を守るための軍が、国民を暴行する」「軍に捕まった人々が内臓を取られ、遺体となって家族の元へ」「銃で撃たれて、大量の血を流しながら運ばれる人々」―日本のニュースでは流れない、ミャンマーの生々しく悲惨な現状です。子どもがいても関係なく銃を向けることに、怒りや悲しさ、言葉にならない複雑な感情が込み上げてきました。

私が最も力になれるのは、「まわりに声を届けることだ」と考えました。知人に口頭で、SNSで複数人に伝えるだけで、世界中に拡散できます。新型コロナウイルスが世界中で蔓延し、財政難である今、募金を呼びかけることは難しいと思います。またコロナに注目が集まることで、ミャンマーへの関心も薄れていると感じます。

私たちにできることは、「まわりに〝声〟を届けること」で、注目がミャンマーに集まるよう支援し、問題の解決に繋げることだと考えます。これを読んだ皆様にも、誰かに伝えてほしいです。

（OCAN〈核兵器廃絶鳳キャンペーン〉
鳳クリニック検査科
岸本彩加）


日本の皆さんへのお願い
ミャンマーを助けてください
◆長年にとって唯一の合法な政府とは？
◆ご寄付のお願い
寄付金受付
銀行名：ゆうちょ銀行
口座番号：00185781
一般社団法人　アジア国際経済交流センター
Save Myanmar Kansai Group
@savemyanmarkansaigroup
@Save%20%20%20